

2011年12月13日 公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の第7回例会が開催されました。



社会に少しでも貢献しようという「公の精神」を共有する企業経営者による会員制”コミュニティー”である「一志会」の第7回例会を、12月13日に開催しました。

今回は、三井物産副社長、三井化学会長、デュポン社外取締役などを歴任された渡邊五郎氏(森ビル特別顧問)をゲストにお迎えし、和やかな雰囲気の中で進め

られました。



渡邊氏からは、豊富な海外でのビジネス経験、持ち前の行動力と豪放磊落な人柄で培

ったグローバルな人脈との交流を踏まえて、「五郎流リーダーシップ論」と題した講話をいただきました。

「基本に戻れ」「自然体で生きよ」「異質への挑戦」「品位のあるカリスマ性」「したたかさ・しなやかさ・つややかさ」「カデンツァ(ルールを守った上での自律的に

思い切って活動する)」などと、リーダーたるべきものの要諦として8項目を、経験談を織り込みながらユーモアたっぷりにお話しいただきました。メンバーは引き込まれるように聞き入り、メモを取るなど、一様に深い感銘を受けました。



メンバースピーチでは、本会が発足して丁度、1周年となることから、活動内容の一層の充実を目指しメンバーから経営課題の材料を提供して貰い、参加者で率直な意見を交わして切磋琢磨し、各自の経営に活かそうという試みを始めました。今回は、その第一号として日本トリムの尾田専務から、同社の今後の事業展開とその課題についてお話しを頂きましたが、初めての試みとは思えないほどに鋭い意見や実例の紹介などがあり、手応えを感じました。



また、岩谷産業の廣田常務からは、メンバーの有志で11月に実施した仙台被災地視察・特別例会の報告がありました。さらに、東京証券取引所の土本常務からは、創刊したばかりの海外向け広報誌「EVOLIVING JAPA」を披露され、海外に向けて積極的に日本と日本企業をアピールし(ちなみに創刊号のテーマは「志」、日本の活性化に貢献したいという熱い思いを語りました。

懇談タイムでは、ゲストを囲み、大いに話しが盛り上がり、時間が足りないほど活況となりました。